

トコロん学カ向上プロジェクト事業

「振り返り」の指導について

※ 本リーフレットの「振り返り」とは、授業の終末時における、「^{せいさつ}省察」を意味する「振り返り」です。

◆ 「振り返り」の意義

学習指導要領総則 第1章第3の1の(4)には、「児童(生徒)が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるように工夫すること」と示されています。

「振り返り」をすることは、授業における自分の学びを確認したり、成長への気づきを促したりすることになり、より深い学びへとつながります。また、「振り返り」から自分の学びへの達成感を得たり、学習状況を捉えたりすることができるようになります。

これらのことから、今後の学習に対して、自分の学び方を見直し、学び方や努力の仕方などについて、見通しを立てて取り組むことができるようになり、**学びに向かう力を育成**します。

◆ 「振り返り」により期待される主な効果

- ① 知識・技能等、学習内容の定着
- ② 達成感の確認(学びの実感)
- ③ 学びに向かう力の向上(学び方を学ぶ)
- ④ 学びの捉え直しや応用・発展
- ⑤ 新たな「問い」の発見
- ⑥ 自己の生き方を振り返る能力の育成

「まとめ ≠ 振り返り」

よく混同されるのが、「まとめ」と「振り返り」です。「まとめ」は、学級全体で何を学んだのか教師と子供が整理することです。

それに対して、「振り返り」は個の活動です。子供たちが学んだことを思い出しながら、感じたことや考えたことを子供自身の言葉で表現することです。



◆ 「振り返り」の主な内容

- ① どのようなことに取り組んだか。(学習活動)
- ② どのようなことが分かったか・どのようなことが分からなかったか。(学習内容)
- ③ 友達の考えや意見にどんなものがあったか。(共通点・相違点)
- ④ 学んだことをどのように生かしていくか。(学習のつながり・日常生活・社会生活)

◆「振り返り」の具体的な視点

「振り返り」では、必ずこれを考えなくてはならないというものはありません。書き方に迷ってしまう子供には、以下の視点を必要に応じて提示しましょう。

- ① 理解の状況の自己診断（～がわかった・～がわからなかった）
- ② 取組の姿勢や態度の自己診断（～を努力した）
- ③ 学びの過程や成長の自己診断（～ができるようになった・～ができなかった）
- ④ 満足感や充実感等の味わい（～が楽しかった）
- ⑤ 新たな疑問（～の場合はどうなるのだろう）
- ⑥ 交流したこと（○さんの発表から～という考え方がわかった）
- ⑦ 次の学びへの期待や願い（～を学習していきたい）
- ⑧ 学びのつながりや理解の捉え直し（～を活用して考えた ～に生かせる ～につながっている）

◆「振り返り」の見取りと指導のポイント

- ① 「振り返り」の目的を子供たちと共有する。
- ② 「振り返り」の時間を確保し、習慣化する。（逆算して授業を計画する）
- ③ 「振り返り」から見えた子供の学びの実態を授業や指導につなげる。
- ④ 「本時で期待する振り返り」を考え、授業を計画・準備・進行する。
- ⑤ 「振り返り」を共有し、多様な考え方や表現の仕方などを確認することもできる。

まずは①②③から
始めましょう。



◆「振り返り」の例

【小学5年生 算数 図形の角の学習】

わたしは、五角形に対角線を1本引いて、三角形と四角形に分けて考えましたが、友だちの考えを聞いて、どんな多角形でも三角形に分ければ内角の和が求められるので、いつでもわかるやり方だと気付きました。今日は、内角の和の新しい発見ができてうれしかったです。

※ 「わたしは～」からはじめると、自分のこととして振り返ることができます。

※ 文章に加えて写真や絵、ICTなどの活用も考えられます。